安部公房全作品

9

新潮社

安部公房全作品9

定価 700円

印　刷　昭和47年10月15日
発　行　昭和47年10月20日
著　者　安部公房（あべこうぼう）
発行者　佐藤亮一
発行所　株式会社新潮社
〒162 東京都新宿区矢来町71
振替 東京808　電話(03)260-1111
印刷所　大日本印刷株式会社　製本所　大口製本
© 1972, Kōbō Abe, Printed in Japan
乱丁，落丁本はおとりかえいたします。

安部公房全作品 9 目次

少女と魚　5
制服　41
どれい狩り　81
永久運動　153
幽霊はここにいる　173

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbo

安部公房全作品 9

少女と魚

十三景

〔登場人物〕

魚の王
一の魚
二の魚
三の魚
むすめ（＝赤んぼう）
漁　師
おかみさん
奥さん
社　長
博　士
カチグリ
妻
ゲンゴロー
署　長
技　師
私

まいにち四時きっかりに、自転車のうしろに組立舞台をつんだ、どんぐり目の人形芝居屋がやってくる。駅の売店わきの空地。町の湿気をすいとるような小太鼓の音をひびかせて、手早く舞台をくりひろげると、あたりはもう子供たちの待ちどおしそうな息遣いでいっぱいだ。さあ……と人形使いはキャラメルをつめた小箱を小脇にかかえ、子供たちによびかける。みんな、おあいをもってきたかね？　一個二円、キャラメルを買うんだよ。二円……二円……今日は小父さんがこのキャラメルをどうして手に入れたかという面白い話。さあ買った、買った、買わない子はうしろ！

人形使いはうしろから、舞台の下にもぐりこみ、かわりに人形使いそっくりの道化た『私』という人形が、舞台の上にあらわれた。幕はまだ上らない。いらなくなった防空カーテンをちぎったような、色あせた黒幕、その上にはげかかった黄色いエナメルで『花園劇場』。身ぶりよろしく、まず『私』の前口上がはじまった。

私　まあお聞き。幕が開くまでのちょっとの辛棒……これは私が魚のむすめからキャラメルをもらった話。ほれ、いまみんながしゃぶっているそのキャラメル、この話を聞いたらもう毎日食べずにはいられない……さて、むかしむかし、と言っても、それほどむかしのことじゃない、つい一年と二た月ほどむかしのある日、花園町というこの町と同じ名のある町の、海岸のきり立ったガケの上から、不幸な母親が生れたばかりの小さなむすめをだいて、こう、まっさかさまに飛込みました。どうしてかって、そいつはよく分らない。悪人はびこるこの世間では、とにかく不幸の数が幸福よりは多いのだ。すると、魚が集まってきて、可哀そうに可哀そうにと泣きながら、お母さんを食べてしまいました。魚が泣くかって？　泣くとも、だから海の水は塩カラいのさ。それから、赤んぼうのほうは、食べずに魚の王様のところにはこんでいきました。なぜって、これが魚の法律なんだ。さて、これから先は、

人形どもの芝居でごらんにいれましょう。(幕をひくが、なかなかうまくいかない)よいしょ、チエッ、やけにひっかかるな。この厚い絹のドンチョウは、ピカピカ光ってきれいだが、まったく重くってやりきれない。

1

(海の中のモダーンな住宅。ここは魚の王様の居間。窓の外に、鎖で海底につないだシャボン玉のような家々が、ふわふわ光って浮いている。魚の王様は、椅子にもたれて居眠りのさいちゅうだ。『私』こっそりしのびよって、ヒゲを引きぬき、観客にウインクして、退場。
魚の王様、おどろいて目をさます。足もとに落ちたヒゲに気づくと、ひろいあげ、ツバをつけて、もとどおりにはりつけた。そこに、バスケットをかついだ三匹の魚どもが登場。王様あわてて本を読むふり)

魚の王　また、なんの用だい？　私はいましらべものの最中でいそがしいんだよ。天文学の本を読んでいるんだよ。(ふと顔をあげて)あ、夕食か。

一の魚　じょうだんじゃない、王様、いま食べたばっかりじゃないか。

魚の王　そうだったっけな？　それじゃ、あっちへ行け。

一の魚　困りますよ。法律にしたがって、人間の赤んぼうをつれてきたんだから。

魚の王　そうか、それじゃ、こっちへ行け。

一の魚
二の魚
三の魚　(おこって)王様！

魚の王　あ、うん、よろしい。ではすぐに裁判する。成長エキスをふりかけろ。

(魚たち、バスケットを床におろし、蓋を開け、エキスのビンを王様から受取って、ふりかける)

一の魚　のびて太って大人になあれ。
二の魚　のンぴてふとんて大人になあれ。
三の魚　のッぴてふちっておちなになあれ。
魚の王　のオびて太オって大人になあーれ。

(バスケットの中から、頭、顔、肩……としだいに可愛らしい少女が成長してくる。胸のへんまで現われてとまる。着ていたボロまでいっしょに成長した)

魚の王　これはきれいなお嬢さん。

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbo

一の魚
二の魚
三の魚　エヘン！

魚の王　（あわてて）では、むすめ、言いなさい。

成長したむすめ　……。

魚の王　どうして黙ってるんだ！　せっかく話ができるように、大人にしてやったのに。

むすめ　だって、まだなんにも聞いてないじゃないの。

魚の王　あ、そうか。ではむすめ、言いなさい。まず第一に、おまえは、フライになりたいか？

むすめ　フライって、なあに？

魚の王　油であげた、食べ物のことだ。おまえは、パリパリして、きっといい味だよ。

むすめ　まあ、いやだわ！

魚の王　ふん、いやか、（がっかりして）残念だな……では、第二に、おまえは魚になりたいか？

むすめ　なりたくないわ。

魚の王　ふんふん、それじゃ、仕方がない、死刑にしよう。

むすめ　シケイって、なあに？

魚の王　ナマで食べてしまうことだ。

むすめ　いやだわ、三つの中で、それがいちばんきらいだわ。

魚の王　こまった、どうしよう。

一の魚　どうもこうもあるもんか、だいたいこのむすめは恩知らずだ。私は収縮剤をとってくる。（退場）

二の魚　同感だ、だいたいこゝのむゝすめは、くゝちのききかたが、わァるいね。私はナイフとポークをとってくる。（退場）

三の魚　まったく、このむゝつめは、法廷ブッチョク罪だ。ワタチはソースを取っちきよお。バチにうんとこコチョウをいれてきてやる。（退場）

むすめ　（泣きじゃくる）

魚の王　こまったな、むすめさん、泣いちゃいけないよ、泣くと味がわるくなるんだよ。

2

むすめ　（不安げに、顔をあげ）王様、わたし魚になったほうがいいわ。

魚の王　え、本当かい！　よかった、よかった。もっと早く言ってくれれば、こんな心配はしないですんだのに。でも、ホッとしたよ。私は血圧が高いので、肉食は体に

悪いんだよ。
むすめ　魚って、ずいぶん無情なものなのね。
魚の王　そうかもしれないね、魚は冷血動物だっていうからね。……でも、これで私なんか、ずいぶん情ぶかいつもりだよ。
むすめ　本当かしら？
魚の王　たぶん本当だよ。
むすめ　でも、証明がなければ、信用できないわ。
魚の王　なんの証明かね？　ピタゴラスの定理ならこの本に書いてある。
むすめ　ちがうわ、王様が情ぶかいことの証明よ。
魚の王　はて？　そんな証明を読んだことがあったっけな？　もしかすると、明日しらべる予定の本かもしれないぞ。
むすめ　しらべなくても、王様がその気になりさえすれば、すぐにでも証明できることよ。私がおねがいすることに、「うん」と言ってさえ下されば、王様が情ぶかい方だっていうことが、すぐ証明できるわ。
魚の王　なるほど、おまえは利口なむすめだ。ちゃんと私が思ってたとおりだったよ。おまえなら、うまくすると、飛魚になれるかもしれんぞ……それでは、ウン。
むすめ　私をもう一度だけ陸にかえしてほしいの。もうしばらく、人間のままでいたいの。
魚の王　ばからしい、人間なんてつまらんよ。海はこんなにきれいだし、このとおり王様は情ぶかいし、それに私は、なんならおまえを自分のむすめにしてやろうかと思ってるんだ。先月、私の一人むすめの口に釣針のエサが飛込んじゃってね。食いしんぼうすぎたんだね。
むすめ　でも、私は陸にかえりたいの。王様が本当に情ぶかいなら、「うん」とおっしゃるはずよ。
魚の王　ああ、ウン。
むすめ　王様、ありがとう。
魚の王　なに、それほどでもないさ。しかし私もちょっとうれしいね。証明したんだからね。これは記録しておいて、次の学会に発表しよう。私はとても学問を愛してるんだよ。

（二の魚は大きな注射器を、二の魚はフォークを、三の魚はソースのビンを、それぞれ持って登場）

二の魚　ナイプはね、クチラがひゃげをそって、刃がポンロポンロになっちゃァった。いまビラメにすゃぐとゃぐように言っといたから、もう三十プーンだけ待っとくれ。

魚の王　もういいんだ。むすめは、やはり、魚になりたいんだとさ。改宗したんだよ。よかったね。
一の魚　ちっともよかアないよ。
三の魚　つこーちだッけ、よかったよ。
魚の王　さあ、善は急げだ、変形エキスをもってこい。
二の魚　よひ来た。（退場）
魚の王　この子がなに魚になるか、かけようや……私は飛魚だと思うがね。
一の魚　いくら？
魚の王　エビの卵一グラム。
一の魚　そんなら、私は、フグになると思うね。この子は、おこりっぽくて、毒がある。
三の魚　わたちは、トビウオでも、ブクでもない、なにかの魚だ。
一の魚　そんなずるいカケがあるものか。何か一つに決めなきゃだめだ。
三の魚　ちゃ、貝だ。パマクリだ。
むすめ　（不安そうに）いやだわ、まるで今すぐ魚になるみたいなこと言って……。
魚の王　すぐだよ。もうじきだよ。
むすめ　あら、うそつき王様！　じゃ証明は取消しね。分ったわ、頭がわるいので、計算しそこなったのね。
魚の王　そんなことはない、だって、ウンと言ったじゃないか。
むすめ　ウンと言っただけじゃだめよ。実行しなけりゃ、証明しそこないだわ。
魚の王　おかしいな、こまったな。
一の魚　なにを言ってるんだい？　こそこそ、闇取引はよしてもらいたいな。
魚の王　君には分らんよ、これは科学的な、学問上のもんだいなんだ。こまったな。実行するなんて、前例のないことだ。

（二の魚、薬ビンをもって登場）

二の魚　さあ、もってきたぞ。
一の魚　よしきた、
三の魚　ちゃっちょく、
二の魚　はじめよう。
魚の王　ちょっと待った、まあ聞いてくれ、学問の名において、たのみたい。実は、むすめが、魚になるまえに、一度陸にかえりたいとたのむので、私はとうとうそれを証明してしまったんだ。おいおい、そんなにこわい顔を

しちゃいけないよ、私は血圧が高いんじゃないか。

二の魚　なに、そんなぱかなことがあるもんか！　そりゃ君主横ボウというもんだ。

魚の王　（重々しく）だが地球はまわっている。

一の魚　そうだ、そうかもしれん。証明したということになりゃ、たぶん、こいつは科学のもんだいだ。

魚の王　そうとも、魚の名誉にかけて、科学的真実は守らねばならん。

三の魚　ちょのとおり！

二の魚　ブーン。

魚の王　この証明で、私がまたハカセ号をもらったら、私はもう五つももっているから、こんどのは1/3ずつにして君たちに分けてあげようよ。君にはハ、君にはカ、君にはセだ。「理学ハ、ナマゼン」なんて名刺をつくったら、きっとそりゃすばらしいぜ。

一の魚　いいね。

二の魚　そういうぽとなら、

三の魚　そういうこちょにちようよ。

むすめ　ありがとう、陸にかえったら、魚がりっぱなこと、どんなに学問を愛してるかを、人間の百科辞典に書いてもらうわ。

一の魚
二の魚
三の魚　（うれしそうに）ハハハ……。

魚の王　でも、なるべく早く帰ってくるんだよ。人間がつまらないことが分ったら、すぐ帰ってくるんだよ。魚のヒレのセンイでつくった服を一着あげるから、帰りたくなったら、一番上のボタンの裏のピンをぬきなさい。そうしたら、すぐ迎えに行ってあげるからね。帰ってきたら、陸のことをよく報告するんだよ。印刷して、学界に発表しようや。こいつもきっと大評判になるぜ。ハハ、私のやることにはまったくソツがないね。

一の魚　じゃ、王様、収縮させるよ。

魚の王　（うなずく）

（一の魚、もっていた注射器を、いきなりむすめの脇腹につきさす。むすめ、みるみるちぢまっていく。バスケットの中に消えてしまったのを、のぞきこもうとして、魚たち鉢合せする）

魚たち　（いっせいに）おお、いててて……この石頭め！

――幕――

私　さあさ、今日はこれでおしまい。あとは明日のおたのしみ……また赤んぼうにかえったむすめはどうなるかどんな不思議な運命が待ってたか？

そして翌日、また四時になると、ケンケン飛びのリズムでなる太鼓、さあ買った、キャラメルを買った……息をのんで待つ子供たち。

（『私』の口上がおわって、幕があき、）

3

（海岸の風景。網をうっている漁師一人）

漁師　やれやれ、今日は朝から、まだ一匹もかからない。このごろ、キャラメル工場から悪い油を流すせいか、魚がみんな沖に逃げてしまったようだね。私のように、小舟しかもっていない貧乏漁師は、まるで駄目になってしまったよ。やれやれ、……（首をふって）はて、手ごたえがあったぞ！（引いてみて）ふう、こいつは重い、大物だよ。たしかに、こいつは大物だ。ふう、よいっしょ、ふう。二貫目？……いや三貫目かな。フフ、婆さんがびっくりするぞ。そらいけ、ふう。よいっしょ、ふう……おや、なんだい、ヒエッ、赤子の死骸だ、（あたりを見まわし）はやくすててしまおう。

赤んぼう　（姿は観客から見えず、声だけ）ウヤーギ、ウヤーギ……。

漁師　ヒエッ、生きてる！　どうしよう。そうだ、ここに（と背景の松の根もとに）置いていこう。ありゃ、ごていねいに、着物までいっしょだ。よしよし、そばにおいといてやろうな。（顔をあげて）おや、ちょうどいい、むこうからキャラメル工場の社長さんの奥さんがやってきた。めんどうをみてやってくれるだろうよ。お金持だからね。さあ、貧乏人のおれはとっとと逃出すとしよう。（赤んぼうのほうを振向いて）どこの誰だか知らないが、たっしゃでな……。

（漁師、はじき飛ばされるように退場。
ややあって、奥さん、つんとした表情で登場）

赤んぼう　ウヤーギ、ウヤーギ。

奥さん　まあ、なんでしょう？

赤んぼう　ウヤーギ、ウヤーギ。

奥さん　食用蛙かしら？
赤んぼう　ウヤーギ、ウヤーギ。
奥さん　まあ、捨子じゃないの。不義の子ね。下品ね……でも、このベビー服、ちょっとすてきじゃない。あら、本当にすてきだわ。まあ、ものすごくすてきだわ。それにこのボタン、なんてすてきなんでしょう。宝石よ、おまけに、中にメダカが泳いでる。キセキじゃないかしら、きっとそうだわ……でも、この下品な子と、このすてきなベビー服と、いったいどんな関係なのかしら？　多分無関係ね、ええ、絶対無関係だわ。こういうのを偶然のいたずらっていうのよ。だってこの子と、ちっとも似合わないじゃないの。この服が似合うのは、この町じゃ、うちの子だけさ。
赤んぼう　ウヤーギ、ウヤーギ。
奥さん　よしよし、おまえさんなんか、この服のそばにいちゃ、うなされるのが当りまえだよ。私があずかって行ってあげるからね、安心おし。でも、この下品な子も、行きあったのが私で幸福だったわね。私だからこそ、おまえさんには、指一本ふれないであげるんだよ。私はいらんおせっかいはきらいなたちだからね。（服をひろい上げようとして）あら、どうしよう、動かないわ。はりついてるのかしら？　そんなはずはない、重いのよ。きっと中に金がつまってるのよ。急いで誰か呼んでこよう。
（退場）

（漁師のおかみさん登場）

おかみさん　だるい、だるい、目も耳も腰も心臓も、みんなだるい。畠仕事の手つだいが、まるでサイの河原の石つみみたいなんだよ。年のせいだろうか、ひもじい様にたたられたんだろうか。いえ、なに、三度三度コンブのしるにイモガユじゃ、こうなるのも当りまえさね。今日はじいさん、いい漁があっただろうか？
赤んぼう　ウヤーギ、ウヤーギ。
おかみさん　あれ、まあ、可哀そうに。（ちょっと考えて）よしよし、つれて帰ってやるよ。うちじゃ幸せというわけにもいくまいが、それでもヒボシになるよかましだわね。おや、きれいな着物がそえてあるよ。子供想いの親だったんだね。深い事情があったんだねえ。（着物をひろい、それに赤んぼうをくるんで立去る）

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbo